

イングランド銀行で賃上げ求めてストライキ

50年ぶりのストライキ

8月1日、イギリスの中央銀行であるイングランド銀行で労働組合 UNITE（ユナイト）の組合員が3日間のストライキに入りました。ストライキに入ったのは保守部門、接客部門、セキュリティ部門の組合員で銀行は必須の業務に影響はないとしています。イングランド銀行では1960年代以来ストライキが行われたことはなく、50年ぶりのストライキとされています。「インデペンデント」電子版は、ストライキの原因をイングランド銀行が労働者に物価上昇を下回る賃金を回答したことにあるとしています。イギリスの直近の消費者物価上昇率は2.6%ですが政府は政府部門の賃金引き上げに1%の上限を課しています。

イングランド銀行はこの1%に拘束されませんが他の公的部門と歩調を合わせる決定をしました。しかし政府部門の各省は総選挙以降この1%の上限を緩和する動きを見せています。今回のストライキの参加対象となるスタッフの年間賃金は26,400ドル（290万4千円）以下で、銀行回答では実質的に賃金カットになると組合は訴えています。

組合は当初7月31日にストライキ開始を予定していましたが、銀行との交渉がぎりぎりまで続けられ8月1日火曜日のストライキ開始となりました。

ストライキ当日の朝、労働党の「影の大蔵大臣」であるジョン・マクドネル氏がストライキ参加者のピケットに駆け付け「労働者の求めているのはディーセントな賃金だ」とストライキへの支持を表明しました。50名のピケット参加者はイングランド銀行のマーク・カーニー総裁の顔写真をマスクのように顔にかぶり「イングランド銀行のスタッフは公正な賃金を求める」と書いたプラカードや旗を掲げ抗議行動を行いました。

UNITEは142万人を組織するイギリス最大の労働組合で、食品・飲料・農業、化学・薬品、製造業など様々な分野を組織し金融・保険部門も組織しています。UNITEのロンドン及び東部地区を担当するピーター・カバナ書記は「イングランド銀行総裁は彼の下で働く労働者が本日ピケットをはって訴えの声を上げている事実に対して責任を取るべきである」と述べ「イングランド銀行がスタッフとの話し合いに失敗したことの結果が過去50年以上発生しなかったストライキとなったのである」と批判。「保守部門、接客部門、セキュリティ部門の組合員は賃金カットをさらに1年押し付けられ争議行為に入る以外に選択の余地はなかったのです」と訴えました。

イングランド銀行の労働者数は4000人で、この争議にかかわっているのは2%とされていますが、UNITEは銀行がこの争議を解決しない場合には、争議行為拡大についてイングランド銀行の他の部門の組合員と協議を開始すると警告しています。（文責田中均 UNITEのインターネットサイト、the Independent 他メディア電子版により、引用文の日本語訳は田中によります）